



①笑顔でフィニッシュする平野さん②10kmのコースを4周回するバイク。ここから150mの高低差を一気に駆け上げります③酒井隆明篠山市長からの親書を受け取った清水雅文町長(左)とスポーツ交流賞が贈られた平野さん

愛は篠山から—— 勝つことより負けぬこと

篠山市 平野寛さん

「ここで一人の選手を紹介したいと思います」

第7回愛南町いやしの郷トライアスロン大会終了後のアワードパーティー、司会のやのひろみさんがアナウンスすると、満員の会場からひととき大きな拍手が巻き起こりました。

紹介されたのは、平成28年8月15日に姉妹都市提携を結んだ篠山市からスポーツ交流事業の一環で派遣され、レースに参加した平野寛さんです。

この日は、日本屈指の難コースと言われる「愛南町いやしの郷トライアスロン大会」に初めて挑み、2時間37分の好タイムで完走しました。ステージ上では、篠山市の酒井隆明市長からの親書を清水雅文町長に手渡し、清水町長からスポーツ交流賞を贈られました。

平野さんがトライアスロンを始めたのは、11年前。もともとトライアスロン志望でしたが、まずは走る力をつけようとフルマラソンに取り組み、そこで3時間を切ったことをきっかけにトライアスロンへの挑戦を決めました。

の伊良湖大会や沖縄県の宮古島大会で上位の成績を残しています。

「いまは楽しむためのトライアスロン。レースの最中はもちろん苦しいけど、レース後の達成感は格別です」そう話す平野さん。現在は、ハーフの大会を中心に年間3本ほどのレースにエントリーしています。

「勝つことよりも負けぬこと」所属チームのコーチにもらった言葉を胸に難関コースに挑んだ平野さん。「ハードだけど、醍醐味があつて楽しめるレースでした。出来は大満足。くじけそうなき、沿道の方の温かい声援をもらい、本当に励みになりました」そうレースを振り返ったトライアスリートは、大会に確かな足跡を残して、愛南を後にしました。

